

「認知症に関する事例」タイムスケジュール

時間	修得目標	講義のポイント	ミニワークテーマ	ミニワークのポイント	
10:00~10:10	導入	研修記録シートの目標を確認 アイスブレイク			
10:10~11:20 (70分)	<p>第1節 四つの代表的な認知症の特徴とケアのポイント</p> <p>第2節 療養上の留意点・倫理的な対応及び起こりやすい課題</p>	<p>①四つの代表的な認知症の特徴とケアのポイントを述べることができる</p> <p>療養上の留意点・倫理的な対応及び起こりやすい課題について説明ができる</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症にかかる事例を学ぶ意義</li> <li>2. 認知症の定義と原因疾患</li> <li>3. 代表的な認知症の知識</li> <li>4. 治療可能な認知症の原因疾患</li> <li>5. 他の症状との区別</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の症状と生活障害</li> <li>2. 中核症状の理解</li> <li>3. 行動・心理症状（BPSD）の理解</li> <li>4. 認知症のステージアプローチ</li> <li>5. 薬物療法と非薬物療法</li> <li>6. 認知症の人へのケア</li> </ol>		理解度を確認
11:20~11:30 (10分)	休憩				
11:30~12:25 (55分)	<p>第3節 独居で認知症の要介護者等におけるアプローチにおける視点や方法</p> <p>第4節 認知症の要介護者と同居しえいる家族に対する支援や地域への配慮と協働の必要性</p> <p>第5節 認知症ケアの考え方に基づくケアマネジメントへの展開方法のポイント</p>	<p>独居で認知症の要介護者等におけるアプローチにおける視点や方法について説明できる</p> <p>認知症の要介護者と同居している家族に対する支援や地域への配慮と協働の必要性について説明できる</p> <p>認知症ケアに基づき、ケアマネジメントへの展開方法のポイント（倫理的な対応、医療職をはじめとする多職種連携、行動・心理症状（BPSD）、環境調整へのアプローチ等）について説明できる</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 独居の認知症の人へのアプローチ</li> <li>2. 独居の認知症の人のケアプランの注意点</li> <li>3. 独居の認知症の人のリスクマネジメント</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族に対する支援</li> <li>2. 認知症の人と地域包括ケア</li> <li>3. 地域の社会資源と協働の必要性</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理的な対応</li> <li>2. 医療職をはじめとする多職種連携</li> <li>3. 行動・心理症状（BPSD）、環境調整へのアプローチ</li> </ol>		
12:25~13:25 (60分)	昼食・休憩				

※ミニワークについては、適宜実施するものとする

「認知症に関する事例」タイムスケジュール

2-2

時間	修得目標	講義のポイント	ミニワークテーマ	ミニワークのポイント
13:25~13:40 (15分)				
第6節 認知症の特性に応じたケアプランプロセス	認知症の特性に応じたポイントを踏まえたケアプランプロセスを実施できる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インテーク</li> <li>2. アセスメント</li> <li>3. ケアプラン原案作成</li> <li>4. サービス担当者会議</li> <li>5. サービス提供や介入</li> <li>6. モニタリング</li> <li>7. 評価</li> </ol>		
第7節 継続学習の必要性和具体的な学習方法（講義）	継続学習の必要性和具体的な学習方法を述べる事ができる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 継続学習の必要性</li> <li>2. 具体的な方法</li> </ol>		
13:40~16:20 (160分) (適宜休憩含)				
第7節 継続学習の必要性和具体的な学習方法（演習）	継続学習の必要性和具体的な学習方法を述べる事ができる	<p>本人・家族の困りごと、希望、要望 介護支援専門員視点からの困りごと 今後の見通し</p> <p>演習 15-③-2</p>		テキスト p213 を参照
		<p>認知症の人の行動の意味を探る視点</p> <p>演習 15-③-5</p>		テキスト p220 を参照
16:20~16:30 (10分)	振り返り	全体の振り返り ポイントについて		

演習 2-1 顕在化している（本人、家族が直接伝えていること、意識することができる）生活上の困りごとは何でしょうか？ その困りごとは何が原因となっているのでしょうか？

本人、家族が直接伝えていること	その困りごとは何の原因から生じているか。

演習 2-2 潜在化している（本人、家族が直接訴えておらず意識することはできていないが、介護支援専門員の専門的視点で困りごととなると考える）生活上の困りごとは何でしょうか？ また、その困りごとは何が原因となっているのでしょうか？

介護支援専門員として考える困りごと	その困りごとは何の原因から生じているか。

演習 2-3 本人、家族はどのような希望、要望をもっているのでしょうか？ またそれを妨げている原因はなんのでしょうか？

本人、家族の生活に対する希望、要望	それを妨げている原因

演習 2-4 今後の見通しを立てましょう。

このまま生活を続けると本人、家族にどのようなリスクがあるか（根拠も合わせて記載する）。	今後のリスクを避け、本人・家族の希望や要望に近づけるためには、どのような支援（サービス種別ではない）が必要か。

演習 2-5 青木さんのニーズ（生活全般の解決すべき課題）を考えましょう。

--

## 認知症の人の行動の意味を探る視点

15-③-5 青木すずさんは、家事をもっとしたいと考えています。

パーソン・センタード・ケアの五つのアプローチ（脳神経疾患、身体状況・感覚、生活歴、性格・気質、心理社会関係）とその相互作用の考え方を参考にして、青木すずさんが、家事をもっと任せてほしいと考える要因は何なのかを考えてみましょう。

【個人ワーク】（10分）

【グループワーク】（20分）

【まとめ】